

[普及事項]

新技術名： リンゴ新殺菌剤の実用化（昭和62～平成7年）

研究機関名 果樹試験場環境部病害担当、鹿角分場
担当者 水野 昇・佐藤 裕、他3名

[要約]

マネージM水和剤600倍は開花前後の黒星病を主体とする防除剤として、プラウ水和剤1000倍は6月下旬までの総合殺菌剤として、ドキリンフロアブル800倍は夏期総合剤として実用性が高い。アンビルフロアブル1000倍はモニリア病葉ぐされ治療効果を有し、黒星病との同時防除が可能であった。

[ねらい]

新しく開発された殺菌剤について、リンゴの主要病害に対する防除効果を検討し、実用性の高い薬剤を県防除基準に採用して、リンゴ病害防除体系の改善を図る。

[技術の内容・特徴]

1. 材料及び方法

モニリア病、黒星病、斑点落葉病、黒点病、褐斑病、炭そ病、輪紋病などリンゴの主要病害の発生期に散布し、これまで用いられている殺菌剤と防除効果、薬害などについて比較検討した。

2. 結果

- 1) マネージM水和剤600倍はE B I剤とマンゼブの混合剤であり、黒星病、赤星病、うどんこ病、初期斑点落葉病、黒点病に高い効果を有する。使用時期は主に黒星病の一次感染期である開花期前後が望ましい。
- 2) プラウ水和剤1000倍はメパニピリム、ジラム、チウラムの混合剤であり、黒星病、赤星病、斑点落葉病、黒点病に防除効果が高い、保護防除剤であり主として落花期から6月下旬までの間に用いる。
- 3) ドキリンフロアブル800倍は既に用いられている有機銅水和剤の剤型を変更したものであり、夏期の総合殺菌剤として同等の効果を有する。本剤は果面の汚染が少なく、薬液調整時の飛散がない。
- 4) アンビルフロアブル1000倍はモニリア病葉ぐされの病斑拡大及び分生孢子形成抑制効果を有し、葉ぐされ治療と黒星病との同時防除が可能である。使用時期は葉ぐされ発生期から開花直前頃である。

[普及対象範囲]

全県（リンゴ）

[普及・参考上の留意事項]

1. マネージM水和剤は多回数用いると耐性菌を発現する危険性があるため、他のE B I剤やE B I混合剤を含め、年間使用回数を2回以内とする。
2. プラウ水和剤は輪紋病の防除効果が劣るので、6月末以降使用しない。
3. アンビルフロアブルの実ぐされ防止効果が劣る試験事例があったので、葉ぐされが多発したときは従来通りトップジンM水和剤を用いる。

[具体的なデータ等]

第1表 マネージM水和剤の黒星病に対する防除効果(秋田果試鹿角、昭62年)

供試 薬剤	使用 濃度	果叢葉		新梢葉		果面サビ 発生度	薬 害
		調査葉数	病葉率	調査葉数	病葉率		
マネージM水和剤	600倍	1199	0%	1517	0.1%	7.6	—
オーソサイド水和剤	800倍	1178	0	1600	1.8	3.1	—
無散布		1112	25.8	1494	63.3	4.9	—

散布月日: 4/30、5/11、5/23、6/5、6/15、6/25、7/6

調査月日: 6/30(果叢葉)、7/15~16(新梢葉)

供試品種: ふじ/M.26 11年生

第2表 プラウ水和剤の黒星病に対する防除効果(秋田果試、平3年)

供試 薬剤	使用 濃度	果(葉)叢				新梢				薬 害
		調査叢数	病叢率	調査葉数	病葉率	調査梢数	病梢率	調査葉数	病葉率	
プラウ水和剤	1000倍	242	0%	1161	0%	144	0%	1555	0%	—
ダイカモン水和剤	600倍	228	0	1063	0	121	0.8	1247	0.1	—
無散布		267	0	1513	0	67	3.0	794	0.5	—

散布月日: 4/26、5/8、5/20、6/3、6/15

調査月日: 7/2

供試品種: 王林/マルバカイドウ 7年生

第3表 プラウ水和剤の黒星病、斑点落葉病、黒点病に対する防除効果(秋田果試鹿角、平3年)

供試 薬剤	使用 濃度	黒星病新梢葉			黒星病	斑点落葉病	黒点病	サビ果		薬 害
		調査葉数	病葉率	病新梢率	病果叢率	病葉率	病果率	調査果数	発生度	
プラウ水和剤	1000倍	1631	0.2%	3.3%	0%	0.8%	0%	192	4.3	—
ホソバトウ木酢	800倍	1577	0.4	6.7	0	2.5	0	189	4.4	—
無散布		1574	7.2	74.4	8.3	27.4	64.5	183	4.1	—

散布月日: 5/7、5/20、6/5、6/18

調査月日: 7/4(黒星病、斑点落葉病)、9/10(黒点病、サビ果発生状況)

供試品種: ふじ/M.26 15年生

第4表 ドキリンフロアブルの斑点落葉病に対する防除効果(秋田果試、平3年)

供試 薬剤	使用 濃度	8月3日				9月12日				薬 害
		調査葉数	病葉率	落葉率	発生度	調査葉数	病葉率	落葉率	発生度	
ドキリンフロアブル	1000倍	905	6.5	0	0.9	1107	9.8	3.3	4.6	—
トモキシン木酢	500倍	999	12.3	0	1.9	1154	21.3	8.9	12.1	—
無散布		1041	72.1	0	16.2	1274	76.3	17.0	49.8	—

散布月日: 6/17、7/3、7/15、7/29、8/9、8/20、9/2

調査月日: 8/3、9/12

供試品種: スターキング・デリシャス/マルバカイドウ 7年生

第5表 アンビルフロアブルのモニリア病葉ぐされ治療防除効果(秋田果試鹿角、平6年)

供試薬剤	使用濃度	供試(発病)		調査		薬害
		花叢数	花叢率	花叢数	花叢率	
アンビルフロアブル	1000倍	28	10.7%	57	19.3%	—
トップジンM木酢	1000倍	23	26.1	37	27.0	—
無散布		32	93.8	63	92.1	—

散布月日: 5/6(接種11日後)

調査月日: 5/17

供試品種: 陸奥/MM.106 18年生

[発表文献等]

なし